

シリーズ
7
新谷

人もお宮もリフレッシュ



新谷区長
山崎 敏英さん
(64歳)

■今月の「おじゃまします」地域情報ネットワークは、こし神社改修を記念して地域ぐるみで「ふれあい祭り」を行った新谷地区におじゃましてみました。

新谷というと、八月号で紹介した栄地区と同様に葛都坊という僧により開発されたところで、古くから農業が盛んな地区です。

その新谷地区にある神明宮(文政七年ころの建立といわれます)。歴史も古く、地区民から村の守り神として親しまれてきました。

しかし、このお宮も長い間風雨にさらされ傷みもひどくなったため、こし全面的に改修工事をして新しく生まれ変わりました。

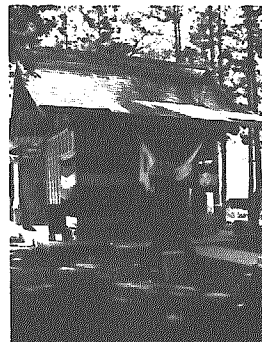


8月21日に開かれた「奉納大芸能大会」は大にぎわいでした。

そのため新谷地区では、毎年九月に行っていた秋祭りを神社改修と地区内集落道の完成を祝って一足早く行いました。

「いまの子どもたちに何かよい思い出を残してやろうと企画したふれあい祭り——本当に皆さんから喜んでもらえて大成功でしたよ」とさる八月二十一日に行われた祭りの成果を話す新谷区長の山崎敏英さん(64歳)。

「ふつうだと九月に秋祭りをやるんですが、こしは神社改修や道路改修を記念して早く行いました。いつもだと太夫舞いなどを舞うだけの祭りでしたが、その太夫舞いを舞う人も少なくなり、どうせやるなら子どもからお年寄まで一緒に楽しめる祭りにしたらどうか、とこの計画が生まれました」と今回の祭りのきっかけを話す区長さん。



銅板の美しい屋根に
ぶきかえられた神明宮。

この計画が持ち上がったからには、地区の野球部、婦人部を中心に地区民全員の協力で準備がスムーズに進められたといいます。

「わたしたちの地区は、今でもそうですが昔から協調性が強く、何かをやるうというときはみんな進んで協力してくれるんですよ」と地区のまとまりの良さを自慢する区長さん。

このように、地区民の創意と工夫により行われた新谷地区の秋祭り。当日は子どもからお年寄までほとんどの地区民が集まり、「奉

納大芸能大会」と銘打って、カラオケ大会や踊りなどバラエティーに富んだ出し物が次々に披露され、神社境内は一晩中笑いと歓声で大にぎわいだったといえます。「今回の祭りは、大勢の人が参加し十分楽しんでもらえたと思います。それに、地区民のふれあいもできたことが最大の収穫ですね。そのうえ、神社改修のとき社内から出てきた資料で、こ

新谷の由来や歴史が明らかになり、それを後世に残すことができたことも本當にうれいすね」と語る区長さん。

「一と自慢するだけあって今回の祭りはすばらしいものだったといえます。『これからも、地区民のふれあいを図るため独創的で親しまれる何かをやっていききたいですね』と地域づくりを意欲満々な山崎区長さん。今回の祭りをおして新しいふれあいの輪がさらに広がった感じの新谷地区でした。

新谷ミニデータ

人口と世帯数

人口	116
男	64
女	52
世帯数	23

(昭和63年9月1日現在)

編集後記

■先月十四日、和納保育園で行われたお月見会。この日招待されたおじいちゃんやおばあちゃんたちは、園児の楽しい歌や踊りのプレゼントにホント目をお月さまのように丸くして楽しんでいました。

■さて、朝晩めっきり涼しくなり、過ごしやすくなりになりましたね。稲刈りも終わり農家のみなさんはホクホク顔ではないでしょうか？ これからは楽しい秋本番。旅行、スポーツにと絶好の季節。それに、おいしい味覚がいっぱいの季節ですね。こし秋、あなたはどちらの季節を満喫しますか。(一)

■今号で特集を組んだ「おらが村岩室ふるさと講座」。実は編集部も私的に参加しているんです。これまで一回欠席したので、皆勤賞は当然ムリ？ と思いますが、毎回案外参加させてもらっています。■ところで、仕事柄？ 村の歴史や郷土史といったものについて、少しは勉強していたつもりなのですが、実際に受講してみると、それらの記述の裏側にある隠された動静——といった新発見がありホント喜んでいます。特集の丸山さんの声にもあるように、これが村づくりになれば最高ですね。(み)

■広報いわむろ 第三八号 昭和六十三年(一九八八年)十月一日発行 毎月一回(一日発行) ■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇(〒953-0101) ■電話 〇三五六一八二(四二二)代 ■印刷 北洋印刷株式会社